

品目	2018年度 (実績)		2019年度 (見込み)				2020年度 (見直し)				コメント		
	10億円	伸び率%	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸び率%	伸び率%	2019年度		2020年度	
			10億円	伸び率%	10億円	伸び率%							
総額	82,304	+7.2%	39,085	▲2.6%	40,624	▲3.7%	79,709	▲3.2%	→	80,423	+0.9%	素材製品を中心に数量の増勢が弱まる。加えて、原油価格の下落が全体の2割強を占める鉱物性燃料の輸入を下押し。	東京五輪や5Gサービス開始が音響映像機器や通信機などの需要を喚起し、輸入を押し上げ。商品市況の安定も輸入減の歯止め役に。もっとも、国内需要全体では低迷が続くなかで、数量の伸びはさらに鈍化。
IM 01 食料品	7,222	+1.3%	3,687	+1.5%	3,633	+1.2%	7,320	+1.4%	→	7,276	▲0.6%	商品ごとにはまだ模様だが、全体では緩やかな増加が続く。	国内消費量の頭打ちで微減。ただし、肉類は価格の持ち直しなどから増加が続く。
魚介類	1,670	▲0.1%	801	▲0.7%	889	+3.0%	1,690	+1.2%	→	1,686	▲0.2%	さけ及びます:国内の不漁を補うためにチリ産などを中心に数量はやや増加。価格は昨年記録的高騰からやや一服。 まぐろ:高価格マグロの需要増が続き、数量増加・価格上昇。 えび:海外での養殖増加が引き続き価格を下押し。国内消費の減少で数量も減少が続く。	さけ及びます:数量はほぼ横ばい。 まぐろ:数量は微増、価格上昇は続く。 えび:価格・数量ともにマイナスがやや一服。
肉類	1,520	+2.1%	809	+3.7%	742	+0.4%	1,552	+2.1%	↑	1,583	+2.0%	豚肉:消費量自体に大きな変化はないが、国内の豚コレラによる生産減で輸入増。 牛肉:微減。国内消費減が重し。米中貿易摩擦を背景に中国向けが日本市場に流れており、価格も下落。 鶏肉:タイ産の中国需要増加などから価格が上昇する一方、数量は減少。	豚肉:消費量自体は引き続き横ばい。国内生産の回復で輸入は減少。日米貿易合意を受けて米国産のシェアが高まる。 牛肉:数量の微減が続くが、価格は持ち直し。日米貿易合意を受けて米国産のシェアが高まる。 鶏肉:引き続き、中国需要の増加で価格が上昇する一方、数量は減少。
IM 02 原料品	4,877	+0.2%	2,467	▲2.3%	2,493	+6.0%	4,960	+1.7%	↓	4,648	▲6.3%	鉄鉱石の価格上昇を主因にやや増加。ただし、数量は鉄鉱石、非鉄金属鉱ともに減少。	鉄鉱石の価格反落を主因に減少。ただし、数量は、非鉄金属鉱が増加に転じ、鉄鉱石も下げ止まり。
鉄鉱石	1,029	▲6.4%	596	+13.4%	653	+29.8%	1,249	+21.4%	↓↓	979	▲21.7%	価格上昇により2割超の増加。上半期のブラジルの供給懸念、中国のインフラ需要が価格を大幅に押し上げ。ただし、世界経済減速のもとでの鉄鋼輸出の弱含みに加え、国内の鉄鋼需要も自動車関連や東京五輪関連の押し上げ効果が弱まるなか、鉄鉱石の輸入数量は引き続き減少。	19年度の価格上昇に反動が生じ、金額は大きく落ち込み。数量は、下半期に国土強靱化関連の公共投資や景気刺激策などが予想されるなかで下げ止まり。
非鉄金属鉱	1,471	+0.1%	708	▲9.3%	611	▲11.5%	1,319	▲10.3%	↑	1,429	+8.3%	銅精鉱の精錬所の定期修理が多く実施されることもあり、数量は減少。また、価格も低下。	銅精鉱の精錬所の定期修理が減るため、数量は増加。価格は下落一服。
IM 03 鉱物性燃料	19,098	+17.5%	8,261	▲9.8%	8,584	▲13.7%	16,845	▲11.8%	↓	16,538	▲1.8%	価格下落を主因に減少に転じる。	価格下落は一服するものの、数量が総じて弱含むため、小幅減が続く。
原油及び粗油	8,720	+19.7%	4,069	▲5.5%	3,901	▲11.6%	7,970	▲8.6%	↓	7,593	▲4.7%	原油価格の下落などの影響を受け、価格が低下。	石油製品の国内需要頭打ちが予想されるなか、減少が続く。
石油製品	1,950	+17.1%	723	▲21.7%	1,020	▲0.7%	1,742	▲10.6%	↑	1,888	+8.3%	原油価格の下落などの影響を受け、価格が低下。	国内需要の頭打ちにより、数量は微減。一方、需給バランスの改善により価格は上昇。
LNG	4,868	+19.4%	1,936	▲11.0%	2,178	▲19.1%	4,114	▲15.5%	↓	4,017	▲2.4%	LNGはデリバリーされる3ヶ月前の原油価格にリンクしていることが多く、原油価格の下落に伴い価格が減少。	原子力発電の再稼働状況の不透明性や石炭火力発電への逆風はLNG輸入量の増加要因となり得る一方、拡大速度が不透明ながらも再生可能エネルギーの普及も想定されるため、19年度と比較しLNG輸入量は大きく変動しないと想定。
LPG	654	+5.2%	253	▲19.3%	294	▲13.7%	547	▲16.4%	↑	594	+8.6%	原油価格の下落などの影響を受け、価格が低下。	家庭業務用・自動車用需要が減少するものの、都市ガス用需要の増加が見込まれることから、LPG需要はほぼ横ばいに。そのもとで、数量は19年度並みとなり、価格はやや上昇すると予想。
石炭	2,840	+11.2%	1,260	▲10.0%	1,171	▲18.8%	2,430	▲14.4%	→	2,432	+0.1%	原料炭、一般炭ともに2ヶタ減に転じる。世界経済の減速を背景とした価格下落が主因。数量については、原料炭はいったん下げ止まり。世界的な自動車需要の低迷などから鉄鋼生産は減少しているが、一部企業の大規模な調達を押し上げ。一方、一般炭は減少持続。上半期の天候不順が冷房などの電力需要を下押ししたことが背景。	価格下落ペースが弱まるもとで、石炭全体の輸入金額も概ね下げ止まり。ただし、数量については、鉄鋼生産や電力需要の明確な回復が見込み薄ななかで、19年度の特異要因が剥落し、原料炭は小幅減、一般炭は小幅増に。
IM 04 化学製品	8,517	+8.7%	4,075	▲2.2%	4,252	▲2.3%	8,327	▲2.2%	↑	8,701	+4.5%	石油化学製品は、原料となるエチレン価格の下落により、価格が低迷。 医薬品は、高齢化を背景に国内需要が堅調に伸び、抗がん剤を中心に輸入額が増加。	石油化学製品への国内需要は概ね横ばいで推移するものの、エチレン価格の低迷は継続する見直し。他方、医薬品と、精油・香料及び化粧品類への需要は、引き続き増加。
IM 05 原料別製品	7,455	+6.9%	3,571	▲4.0%	3,507	▲6.1%	7,078	▲5.1%	↑	7,280	+2.9%	減少に転じる。幅広い品目での価格低下が主因。	価格が総じて持ち直すことから、再び増加へ。ただし、数量の回復力は微弱。
鉄鋼	1,032	+9.5%	469	▲6.9%	438	▲17.0%	907	▲12.1%	↓	882	▲2.8%	数量は18年度からほぼ横ばいとなるものの、価格が大幅に低下しているため、金額は減少する。	価格は下げ止まるが、数量がやや減少。
非鉄金属	1,955	+8.1%	873	▲13.8%	921	▲2.3%	1,794	▲8.2%	↑	1,916	+6.8%	アルミニウム:数量は、上半期から減少している地金・合金地金に加え下半期には圧延品も減少。価格も下落しているため、金額が大幅に減少する。 白金族:パラジウムの供給が不足するなか、主に価格上昇により増加。	アルミニウム:地金・同合金、圧延品などの数量減は一服。価格もやや回復。 白金族:数量は、国内スクラップの回収が増えるものの、自動車触媒などの産業用需要が持ち直すなかで微増。価格は19年度から横ばいの見直し。
織物用糸・繊維製品	977	+5.5%	476	+0.1%	481	▲4.0%	957	▲2.0%	→	965	+0.8%	減少に転じる。20年度にかけて相次ぐ大型スポーツイベント、災害復旧需要の増加を背景に、数量は衣料向けや公共工事向けを中心に増加。しかし、綿花など素材の市況悪化を映じて価格が落ち込み。	小幅増に転じる。素材の市況悪化に歯止めが掛かることを受けて、中間財の輸入価格も徐々に持ち直すため。ただし、数量面での各種押し上げ効果が弱まっていくため、力強い回復は見込み薄。
非金属鉱物製品	740	+5.3%	356	▲4.0%	356	▲3.5%	712	▲3.7%	↑	734	+3.1%	ガラス及び同製品:住宅着工件数の緩やかな減少により建設用製品の数量は18年度を下回る。中国の競争力の向上によって、価格は下落傾向であるため、金額は減少する。 ダイヤモンド:数量は下半期にやや持ち直すものの、価格の低下が続くため、金額は減少する。	ガラス及び同製品:自動車用製品を中心に持ち直す。 ダイヤモンド:数量・価格とも横ばいとなるため、金額もほぼ横ばいで推移する。
IM 06 一般機械	7,911	+6.7%	3,802	▲1.7%	3,983	▲1.5%	7,785	▲1.6%	↓	7,508	▲3.6%	電算機類は、パソコンの買い替え需要により増勢加速。しかし、半導体メーカーの在庫調整や米中貿易摩擦を背景とした投資抑制のため半導体等製造装置が減少。また、航空機用内燃機関を中心として原動機も減少するため、全体では減少。	半導体等製造装置や原動機が持ち直すものの、電算機類に反動減が生じるため、全体では減少が続く。
電算機類(含周辺機器)	2,054	+2.2%	1,070	+15.7%	1,158	+2.5%	2,228	+8.5%	↓↓	1,950	▲12.5%	増勢が強まる。主力OSのサポート終了(Windows7、2021年1月)を迎えるなか、上半期を中心にパソコンの買い替え需要が顕在化しており、輸入を押し上げ。ただし、ビジネス用途でシンプルな機能に絞られ、価格も抑えられたモバイルノートがけん引役。	2ヶタ減に転じる。人手不足対応や生産性向上、キャッシュレス決済対応を企図した企業のサーバー投資など、需要拡大が期待できる分野もあるが、基本的には、19年度のパソコン買い替え需要増の反動減が顕在化し、輸入を大きく下押し。
IM 07 電気機器	12,334	+1.7%	5,808	+0.4%	6,805	+3.9%	12,613	+2.3%	↑	13,821	+9.6%	半導体等電子部品の減少が続くものの、通信機に加え、4K/8Kテレビや衛星チューナー、DVDレコーダーといった音響映像機器の国内需要が高まるなか、電気機器全体の輸入は緩やかな増加が続く。	増勢が強まる。東京五輪開催や国内での5Gサービス開始が、通信機、音響映像機器、半導体等電子部品の各分野での輸入を押し上げ。
半導体等電子部品	2,782	▲0.3%	1,295	▲6.8%	1,339	▲3.8%	2,635	▲5.3%	↑	2,861	+8.6%	サーバー向けICなどで価格下落が進む。ただし、パソコン需要の盛り上がりICの輸入数量を押し上げ。	パソコン関連は減少するが、20年3月に国内サービスが開始する5G関連需要や車載向け需要が増加するため、数量・価格とも19年度比プラスに。
通信機	3,041	▲2.9%	1,268	▲2.4%	1,819	+4.4%	3,087	+1.5%	↑	3,304	+7.0%	下半期を中心に増加。国内市場で、19年10月以降の料金プランが明確になったこと、キャッシュレス決済用端末としてのスマートフォン需要が高まっていることが背景。消費税率引き上げの影響は限定的。	東京五輪開催に伴う訪日外国人増加や4K/8Kテレビの普及、国内での5Gサービスの開始が、プライベート端末やSIMフリー端末、様々なネットワーク関連機器の需要を押し上げ、輸入にも追い風に。
IM 08 輸送用機器	3,510	+9.0%	1,811	+3.7%	1,695	▲3.9%	3,506	▲0.1%	↓	3,414	▲2.6%	自動車は緩やかな増加が続く。航空機類も上半期を中心に高水準を維持するが、自動車の部分品が減少。	自動車の部分品の減少は一服するが、自動車の増勢鈍化、航空機類の落ち込みにより、全体では減少が続く。
自動車	1,387	+0.8%	730	+2.9%	677	▲0.0%	1,407	+1.5%	→	1,419	+0.8%	消費税率引き上げが下押し要因となるも、イタリア・英国の高級車の好調が下支え。	高級車の好調は続くものの、数量全体では頭打ちに。
航空機類	814	+50.6%	441	+12.2%	390	▲7.4%	831	+2.1%	↓	780	▲6.1%	航空機類は3~5年の受注生産。インバウンド・五輪需要を背景に、大型機の導入が進む。	五輪効果が一巡。ただし、インバウンド需要自体は堅調な推移が見込まれ、そうしたなかで中・小型機の機材整備へ重点が移行。
IM 09 その他	11,381	+3.5%	5,603	+1.2%	5,672	▲3.0%	11,275	▲0.9%	→	11,237	▲0.3%	精密機器類:半導体・液晶関連は低迷が続くが、医療関係及び計測機器類は様々なセンサー需要の拡大などを追い風に増加。なお、コンタクトレンズなどの一部品目で消費税率引き上げ前の駆け込み需要の影響あり。 その他雑製品:全般に高水準ながら、横ばいもしくは小幅減となる品目が多い。なお、ジュエリーなどの一部品目で消費税率引き上げ前の駆け込み需要の影響が考え得るが、必ずしも目立つものとなっていない。 特殊取扱品:金の通関は概ね低水準が続くと見込む。	衣料品に五輪効果による輸入増が見込まれるものの、全体としては国内景気の伸び悩みを映じた低迷が続く。
衣類・同付属品	3,327	+7.3%	1,612	▲2.7%	1,722	+3.1%	3,334	+0.2%	↑	3,428	+2.8%	スポーツやアウトドア用ウェアなど機能性の高い素材の需要は18年度に引き続き堅調だが、衣料品需要全体は伸び悩み。こうしたなかで、輸入は18年度の高い伸びから鈍化。	国内需要全体の顕著な回復は困難ながら、東京五輪開催に伴い、スポーツウェア需要の盛り上がりやインバウンド効果の発現が見込まれ、輸入の伸びはやや高まる。
製品輸入	51,107	+5.2%	24,670	▲0.6%	25,914	▲1.4%	50,584	▲1.0%	↑	51,961	+2.7%	製品輸入比率63.5%(18年度比+1.4ポイント)	製品輸入比率64.6%(19年度比+1.1ポイント)

*2019年度上半期の実績は9桁運搬ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。